



2020年度 全国大学病院輸血部会議  
技師研究会 アンケート調査

## 希釈式自己血輸血の運用に関する調査

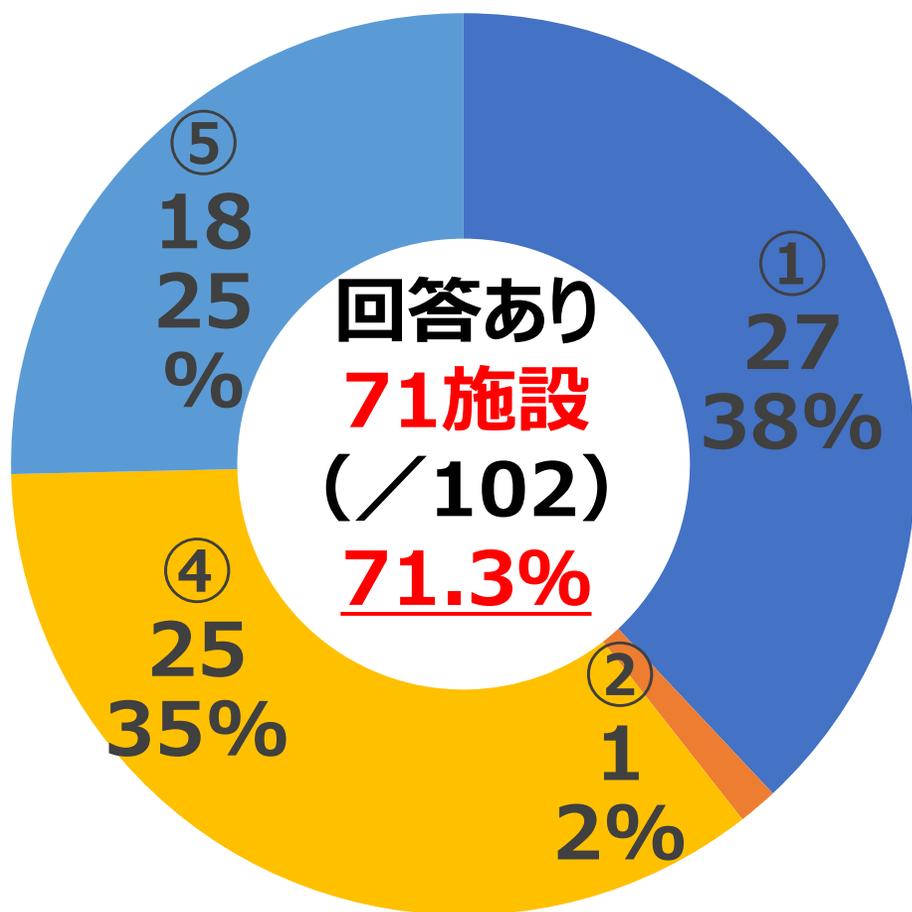
---

名古屋市立大学病院・診療技術部

臨床検査技術科

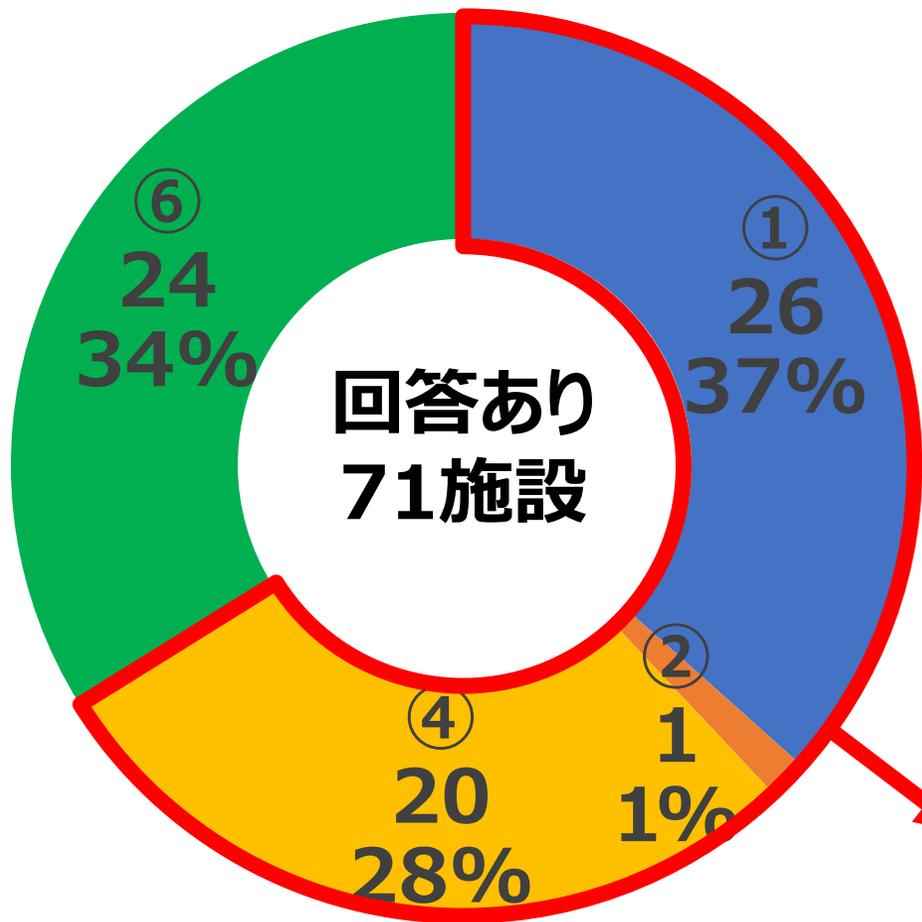
可児 里美

## 2 回答率と希釈式自己血輸血の採用基準



- ① 希釈式実施基準 (2016)  
→27施設中1施設は実施なし/不明
- ② 同基準 + 自施設基準
- ③ 自施設基準
- ④ 特に基準は設けていない  
→25施設中5施設は実施なし/不明
- ⑤ その他  
→18施設中18施設は実施なし/不明

### 3 希釈式自己血輸血の実施状況（修正後）

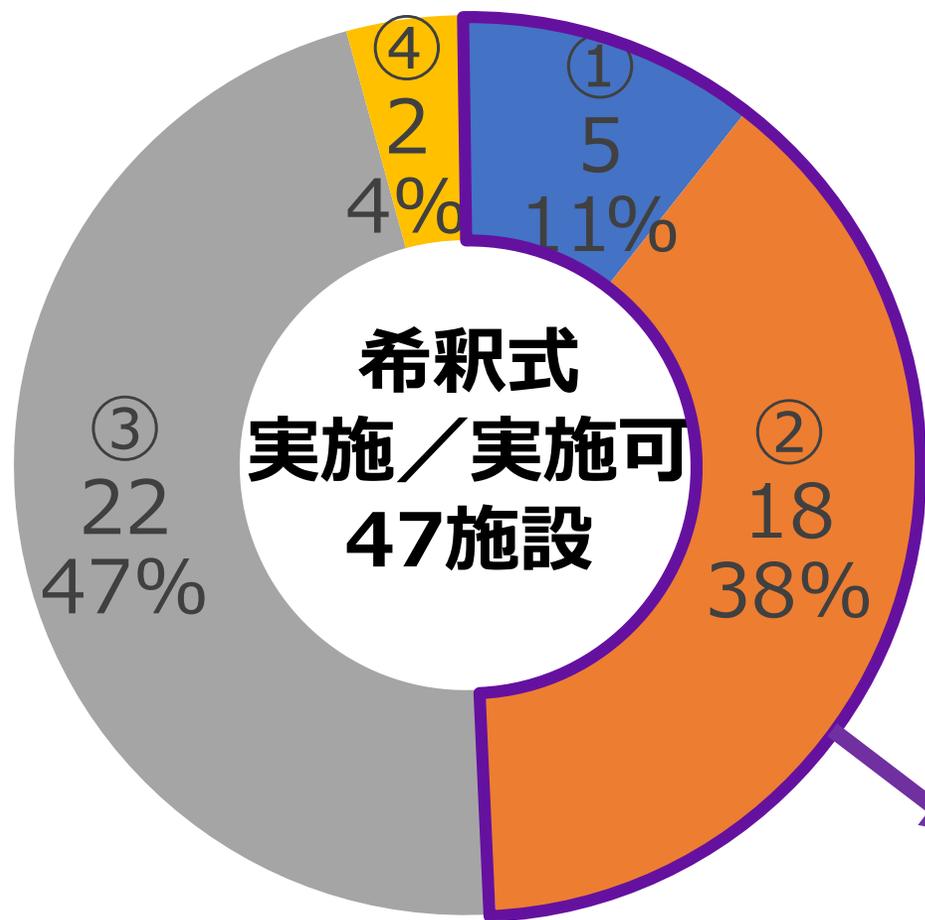


- ① 希釈式実施基準 (2016)
- ② 同基準 + 自施設基準
- ④ 特に基準は設けていない
- ⑥ 実施なし / 不明

- 感染症検査 (+) 患者は採血せず  
HBs抗原・HBs抗体、HCV抗体、  
HIV抗体、TP抗体  
※HBs抗体: 予防接種可、TP抗体: 既往可

※47/71施設 (66%) は希釈式自己血輸血を実施または可能な状況

## 4 希釈式自己血輸血のシステム管理



- ①専用あり
- ②共用あり
- ③システムなし
- ④その他

- 事前申込み分と輸血部一時保管の依頼があった分を②の運用。それ以外は③の運用。
- 事後入力で使用量のみ記録

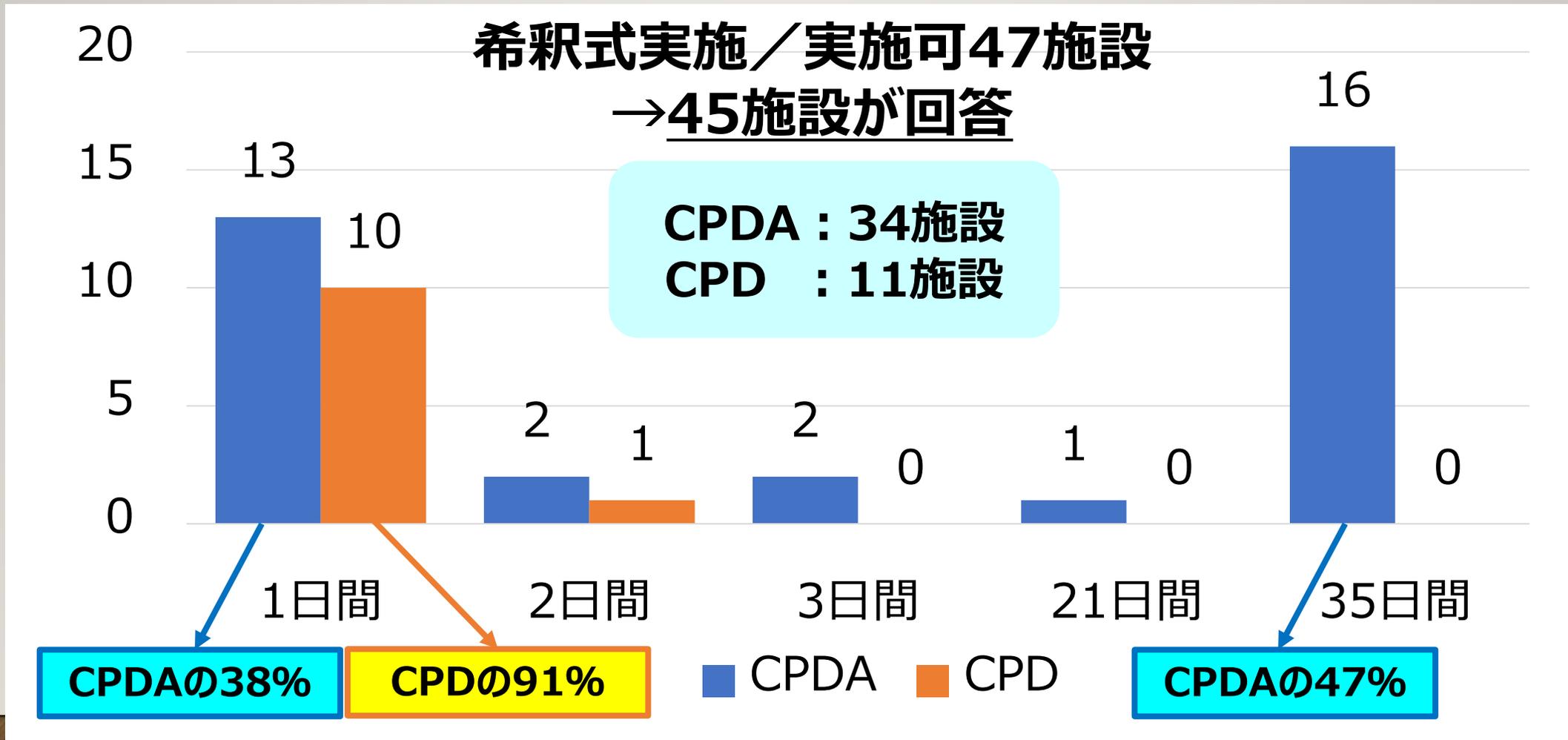
※23/47施設 (49%) は専用  
または共用のシステム管理で運用

## 5 各業務のシステム管理状況

希釈式実施／実施可47施設→専用／共用システムあり：23施設



## 6 血液バッグの保存液と採取後の有効期限



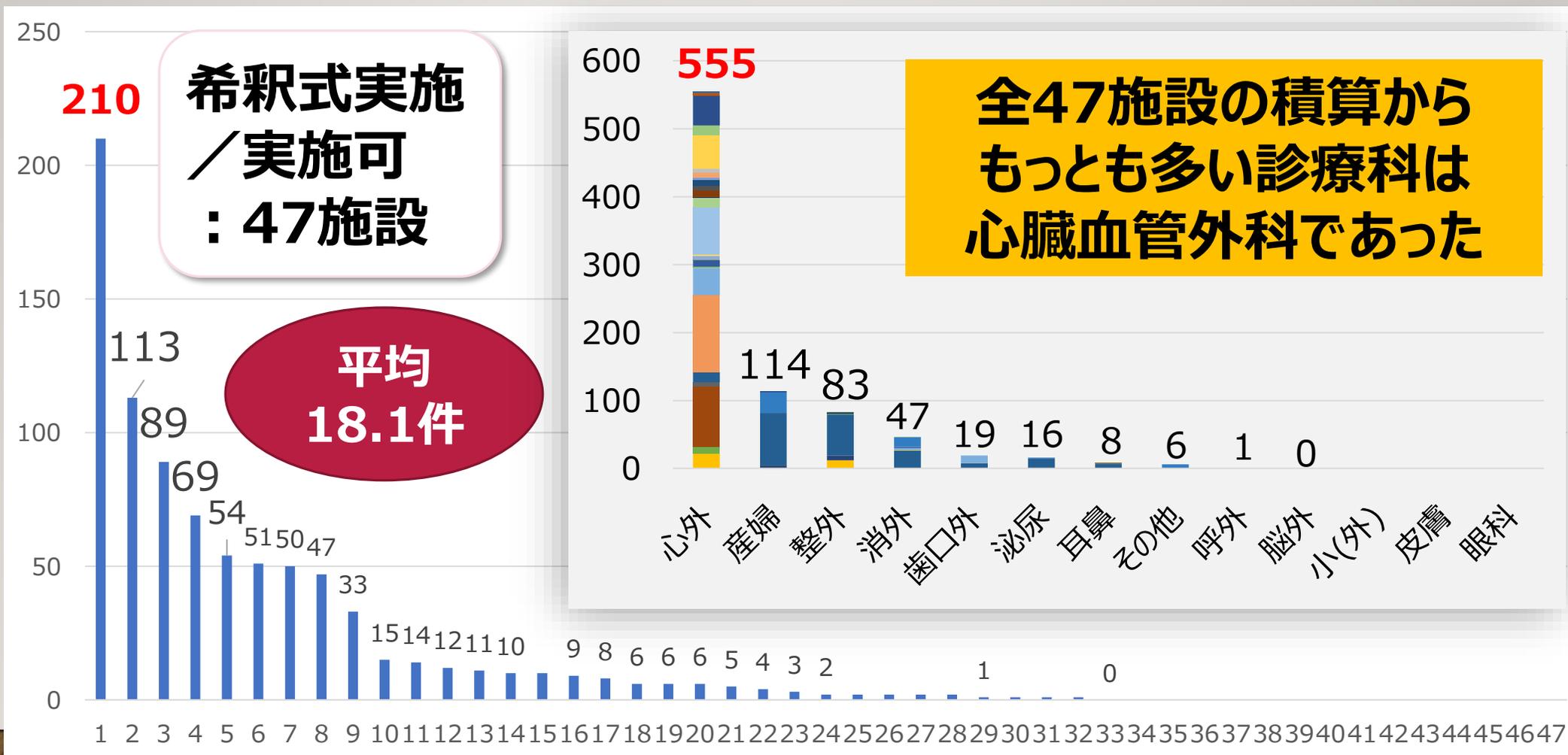
# 7 希釈式自己血輸血の自己血製剤管理

希釈式実施／実施可 47施設中 46施設が回答	採取後～手術中の希釈式自己血製剤管理			
	医師が <b>手術室</b>	看護師が <b>手術室</b>	Dr／Nsが <b>手術室</b>	臨床検査技師が <b>輸血部</b>
手術後の希釈式自己血製剤管理				
手術室で保管、廃棄する	15	1	6	手術室から ICUへの 持込あり：1
手術室で保管後、 廃棄時に輸血部で処理をする	8	1	1	
輸血部で保管管理				7
その他	6		1	
計	<b>29</b>	<b>2</b>	<b>8</b>	<b>7</b>

必ず返血：4  
 手術室または輸血部にて保管・廃棄：1  
 コメント無回答：1

**手術室管理：39施設（85%）**  
**輸血部管理：7施設（15%）**

# 8 実施状況（2019年1月～12月）



## 9 まとめ

---

- 回答施設の66%は、希釈式自己血輸血を実施しているか、実施可能であった。
- 希釈式自己血輸血を実施／可な施設では、約半数がシステム運用していた。
- 希釈式自己血輸血を実施／可な施設では、CPD保存液を使用する施設の91%で当日中の期限としており、CPDA保存液を使用する施設では当日中と35日間の回答に分かれていた。
- 採血～手術中は手術室内で製剤を保管・管理する施設が85%を占めた。
- 希釈式自己血輸血の実施診療科は、半数以上が心臓血管外科であった。

## 10 その他いただいたコメント①

---

- ◆ 有効期限について、室温保存の場合採血後6時間以内、冷蔵保存で採血後24時間以内となっています。
- ◆ 以前は心臓血管外科から時々依頼があったが、このところ依頼なし。
- ◆ 輸血部の関与としては採血バッグを提供するのみで、実際の運用には関与していません。そのため記録も残していないため件数は不明ですが、おそらく1～2件と思います。
- ◆ 現時点ではシステムは構築してものの、1例のみの実施。OPE前の慌ただしい中での採血になるため、あまり普及しないと考えられる。
- ◆ 今回のアンケートについて。希釈血について最近部門システムにて依頼できるようになり、システム上医事も反映できるようになりました。使用量についてのアンケート期間はシステム化されていない期間であったため、調査するには膨大な時間を要するため、調査できませんでした。
- ◆ 希釈式自己血自体の認識が院内に浸透しておらず、貯血式や回収式と比べ件数が少ない。当院における心臓外科手術の2例は、どちらも瀉血目的で結果的に希釈式自己血となったものである。
- ◆ 採血者の確保が困難で、実際には運用できていません
- ◆ 希釈式自己血も貯血式自己血同様の管理を実施したいと手術部からの要望はあるが、手術部で採血する希釈式自己血を輸血部門システムで登録・出庫する手段がないことや、実施件数が少ないことから対応見送り状態となっている。

## || その他いただいたコメント②

---

- ◆ 希釈式自己血の運用マニュアルはありますが、実施経験はありません。
- ◆ 臨床検査技師が手術室内で採血補助業務を行う。その場でバーコードが添付された患者シールをバッグへ貼り、輸血室にて保管管理を行う。使用時にはシステム上で払い出し作業を行い、手術室へ搬送する。医師、手術室からは製剤管理の煩雑さや安全性が担保されていると感謝されている。
- ◆ 当院では手術室から一切出さない運用のため、事後の事務処理以外の輸血部門の関与は難しい。
- ◆ システムで対応している施設は年齢、体重、輸血量といった診療報酬に関わる内容を含んでいるのか教えてもらいたい。
- ◆ 2019年は1例もありませんでした。当院ではほとんど実施していません。
- ◆ 当院の現行ルールでは、採取後の希釈式自己血バッグを貯血式と同じく輸血部にて製剤登録し、輸血部にて管理している。医師からは、日本自己血輸血学会の「希釈式自己血輸血実施基準（2016）」において「自己血は採取した手術室内で室温保存し、外には持ち出さないことを原則とする。」との記載があることから、手術室内で完結する運用が要望されている。

## 12

この度は貴重な機会を頂き、有難うございました。  
お忙しい中、ご協力いただきました皆様、ご指導を  
賜りました先生方に、心より感謝を申し上げます。

